



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済
©1981 精道教育促進協会(菅原)三・三四五二 芦屋市船戸町12-6

教皇様の叢

秘跡によって

二人一組で

つかわされる夫婦

家庭と家族

愛の結びつき

聖霊の働きによって、あなたがた二人はひとつに結ばれている。ひとつに結ぶその力こそ愛にほかなりません。そしてこの人間的な愛は、みなさんがたの心のなかで育まれ、堅い決意となって、祭壇の前ではっきり言い表わされました。それは、明確な同意を求める司祭を証人として、みなさんが互いに「はい、受け入れます」と応え、忠節な愛のシンボルとして、祝別された指輪を交換したときのことです。

愛は人格のなかに生まれ、体と魂をつつみ込み、心と意志において成熟する。愛が「人間」にふさわしいものであるためには、身体的と精神的、霊的な面すべてをそなえた人格を包みこんでいなければならないのです。

それと同時に「わたしたちに賜わっている聖霊によって、わたしたちの心に神の愛が注がれ」(ローマ5・5)ともいえるのです。

神の愛と人間の愛は、結婚の日からずっと、相互に貫き合います。じつに神の愛が人間の愛に貫きわたってはじめ、あたらしい地平が開かれるのです。こうして人間の愛は深まり、純化し、寛容になります。充実し、高貴になり、霊化し、犠牲と自己否定をさえ厭わぬものとなって、平和と喜びという稔りを生むこともできるようになるのです。

この愛によって、あなたがたは神のうちに一つとなります。「人格の通功」と呼ばれるものです。神の名において集まったふたりが一体となり、神はふたりの中におられる。(マテオ18・20参照)

キリストに基づいたこの結びつきは当然、祈りにあらわれます。愛は、賜物であり、掟です。まず神からの賜物、なぜなら神がさきに、私たちを愛して下さったのだから。(ヨハネ④・10参照) 愛はまた掟です。すべての

道徳的な指針はこの掟に基を置いているのです。昨年十一月十二日、家庭のためのミサの説教で言いましたように、「愛の掟を果たす」とは、キリスト者の家庭に与えられたすべての義務を果たすことです。それは忠節、夫婦のつとめ、親としての責任、子どもへの教育です。「小さな教会」——家庭教会とは、愛の内的な真実、愛の日々の労苦、愛のもつ霊的な美しさと力、つまり愛の掟の精神を心にかけて生きていく家庭のことです。ところでこのような愛と一致の詩を実際に生きようとするば、どうしても祈りが必要で、祈りは、愛と一致の本質です。夫婦が、その心のため、良心のため、肉体のために、協力して養育てねばならぬ尊敬の念を、祈りは強め、助け、純粹にし、喜びせ、光明と忠告を与え、そして深めてくれる。夫婦は敬意を抱いてこそ、たがいに近づいてゆくのです。第二ヴァティカン公会議の適切な言葉を引きましょ。

「このようなキリスト教的召命の義務を絶えず実行するためには、すぐれた徳を必要とする。したがって、恩恵によって聖なる生活を送るための力づけを与えられた夫婦は、強い愛と寛大な心と犠牲の精神を熱心に養い、また祈りを求めるべきである」(現代世界憲章49)

今日わたくしは、あなたがたの生活のなかでいつもエマウスの出来事がくり返されますように望みます。パンを割くキリストに気づいてください。こうして「パンを割かれた」あとのキリストを、あなた方のなか、心のなかにおられるキリストを、たえずみつめてください。

あなた方全ての夫婦をわたくしはキリストに委ねます。キリストはあなた方の道を共に行こうと望んでおられる。エマウスまでの道を弟子たちと共にされたように。私はみなさん方のことを人の心のうちを知りたもうキリストにお任せします。

あたらしい尊厳とあたらしい使命

初めて弟子たちを福音の宣教に送りたもうたときイエズスは、「ふたり一組」とされました。(マルコ6・7参照) あなたがたも、「偉大な秘跡」によってふたり一組で送られているのです。この秘跡を受けてあなたがたは、夫となり妻となりましたが、同時にまた、十字架につけられたキリスト、甦りたもうたキリストの証人ともなりました。

婚姻の秘跡において、あなたがたはキリスト教徒としてあたらしい尊い務めを受けました。夫であり妻であることの尊厳です。そして

愛が人間にふさわしいものであるためには、身体的と精神的、霊的の面を備えた人格を包みこんでいなければなりません。
■祈りは夫婦の愛と一致の本質です。

あたらしい使命をも担ったのです。つまり、神の民全体がもつ使命に参加すること、そしてさまざまな方法でキリストご自身の「三重の使命」を代行することです。

全生活をあげてこの使命を成し遂げ、そのためには殊に自ら模範を示さねばなりません。この点についてもまた第二ヴァティカン公会議が簡潔雄弁に光を投げかけてくれました。

「キリスト者の夫婦がこの愛の忠実と調和についての、また子供の教育の配慮についてのすぐれたあかしとなり、また婚姻と家庭のために必要とされる文化的、心理的、社会的

刷新に協力するならば、真正な夫婦愛はいっそう尊重され、それについて健全な世論が形成されるであろう。(現代世界憲章49)

みなさん方のあかしこそ大切なのです。それはなんと人間らしいものでしょう。またなんと根本的にキリスト者にふさわしいものでしょう。ところで、信仰と愛をあかしするこの大切な仕事をきつちりとやり遂げるために、みなさん方結婚したおふたりは、自分でも「神からの恵み(カリスマ)」をいただいているのです。それは公会議が次のように述べているのです。

「真正な夫婦愛は神の愛の中に取り上げられ、キリストのあがないの力と教会の救いの働きによって導かれ豊かにされる。こうして夫婦は効果的に神のもとに導かれ、父母としての崇高な務めを果たすために、助けられ強められる。この理由から、キリスト者である夫婦は、その身分上の義務と尊厳のため、特別な秘跡によって強められ、いわば聖別される。キリスト者である夫婦は、この秘跡の力によって夫婦と家庭の務めを果たし、かれらの全生活を信仰と愛をもって包むキリストの精神に満たされて、ますます自己完成と相互の聖化に進み、ともに神を賛美する。(同48)

あなた方は、全生命、人間としての生活、その生き方を通して、基本的な最小単位の「教会」(愛らしい教会)を打ち建ててののです。それは小さな「家庭教会」ではありませんが、神が自ら望まれたもの、キリストによってキリストを礎として建てられたものです。その一番大切な使命は福音の宣教、その教会の人びとが受けた永遠の救いを伝え広めることであり、その内部に漲る力は、聖霊の光と恩寵によるものです。(…)

神の民の偉大な共同体(教会)のなかで、あなたがた夫婦が占めている固有な「場所」を、私はあらためて確認したいと思えます。あなた方のこの「小さな教会」に私の特別の愛を示したいのです。「エクレシオラ(愛

らしい教会)」という言葉にもその思いは表わされています。そしてまたわたくしは、あなた方を「教会」にも捧げたい。「教会」は「神の偉大な神秘」です。「教会」は人間の歴史のなかで成就され、「教会」のなかで人間は自らを完成し、その定めと召命をまっとうするのです。

■「私はキリストの神秘体である教会の特別な部分を形づくる一人であったことを感謝しています。」

■苦しみにおいてこそ救いの恩寵が心に深く根づくことを知りました。

「教会」になってください。「教会」を建設してください。この聖なる建設の仕事は、みなさん方の双肩にかかっているのです。

偉大な尊厳と責任

婚姻の秘跡において、みなさん方は夫たるべく、妻たるべく召し出された。それのみか、同じように、親たるべく、父と母たるべく召し出されてもいるのです。なんとすばらしい召し出し、なんとという偉い務め、同時にまた、なんと重い責任を負っていることでしょうか。

あらゆる言葉のなかでも一番的確なものを使いたい。でなければ、この尊い務めの美しさ、召し出しの偉大さを述べられないからです。この召し出しを受けるには聖霊の力が必要ですが、いつ聖霊を受けたのでしょうか。ほ

かでもない、みなさん方が「ひとつの肉」として親になることを表明したとき、そして自分の生命のなかに新しいいのちのために、いかに新しい人間のために、場所をつくったときなのですか。

この「あたらしい」人間こそ、やがてはあなたの肉の肉、あなたの骨の骨と呼ばれる、あなたの子です。(創世記2・23参照)その子に、あなたの体と霊にあるものうち最良のものを伝えねばならない。まさに、「生む」とは教育すること、そして、教育するとは生むことなのです。人間にあって体と霊は分ちがたく結びついている。だから親であることを示す偉大な二つの面、つまり、出産と教育も、相互に分ちがたいものなのです。

教育するということは大変なことです。自ら実感されているでしょうが、子に対して人間らしいふるまいを教えるだけでも、その壮大で長く、我慢のいる道のりは、なんとという苦勞であることか。親子の間柄は、神との父子関係がこの人間性という地に接ぎ木されてきたものです。したがって、御父から聖霊をとおして御子キリストにおいて受けた生命の充実を、肉体については人間の親から生れ、精神は神から生れたこの子に教えてやらねばなりません。

ここまで考えれば、よい折です。もういちど公会議の言葉を読みましょう。

「真の教育の目的は、人間の究極目的のため、また、成人した時に自分が一員となり、その使命達成に協力しなければならぬ共同体の福祉のために、人格を形成することである。

したがって、最新の心理学、教育学を利用して、青少年の肉体的・道徳的・知的天分が調和のとれた発展をとげるように、また、強固な精神をもって障害を克服しつつ、絶え間ない努力をもって自分の生活を発展させ、その生活を自由に行うことができるように、完全な

責任感を次第に身につけるための助けを与えなければならぬ。かれらは、成長するにつれて、積極的で賢明な性教育を受けなければならぬ。そのうえ社会生活に参加するために必要で適切な技術を身につけ、人間社会の種々の領域に行動的に参加することができ、他人との対話に心を開き、公共の福祉を推進するために努力を惜しまないように育てられなければならない。(キリスト教的教育に関する宣言)

親としての役割、あなたが親としての担っている責任を、「永遠の御父」ご自身に委ねたいと、わたくしはどれほど懸命に望んでいることか。キリストと共に、御父に結ばれなさい。聖霊の働きをうけて、「アッパ(父よ)」という言葉は何度もくりかえしてください。そして、主の祈りを唱えてください。神ご自身から、父であること、母であることの意味を、たえず学ぶためです。天なる父の代理となり、たえず、学ぶためです。

ほかでもない創造主ご自身のみわざに協力するよう召し出されているお父さん、お母さんが、わたくしはみなさん方を御父に委ねます。

聖霊の働きをうけて、
「アッパ、父よ」とくりかえしてください。主の祈りを唱えてください。神ご自身から、父であること、母であることの意味を、たえず学ぶためなのです。

説教・講話・書簡等の抄訳

特別な愛

「親である」という尊い務め、親としての尊厳を知れば、配偶者としてそれぞれが互いにどんな意味をもつかよく判ることでしょう。親としての尊厳は愛全体、つまり、体と魂において完成する愛を照してくれまます。本来にみなさん方は大変特別な愛へと招かれていくのです。

このとても大切に微妙なテーマについても第二ヴァティカン公会議が導き手になってくれるでしょう。「現代世界憲章」にこうあります。

「この愛は人間的なものと神的なものとを合わせ、細やかな愛情とその表現に具体化される相互の自由な与え合いに夫婦を導き、夫

■夫婦の一致がもつ美しさの一切は少しづつ究めなければなりません。

■人間の身体的な面がその美しさ、輝き、真実を描き出すのは、つまるところ「霊」なのです。

婦の全生活に行きわたる。実際、この愛は惜しみない実践によって完成し、また成長する。この愛は、利己的に追求され、まもなくみじめに消え去る肉体だけの傾向をはるかに越える。(49番)

さらにこう強調されています。

「人間の性的本質と生殖能力は、下等生物に見いだされるそれをはるかに越える。したがって、人間の正しい品位に基づいて行なわれる夫婦生活固有の行為に対して、大きな尊敬を払わなければならない。夫婦と生命伝

達の責任との調和が問題となるときには、(…)そのすべては夫婦間の貞潔の徳をまじめに実践することなしには実現できない。(現代世界憲章51)

このような愛し方はたえず学んでゆかねばなりません。まさしくこのような愛であるかどうかをしつかり見分けていかなければなりません。この愛の内面の真実を守っていかなければならないのです。よく「存知のとおり、教会が、いわゆる「夫婦愛についての要理」で教えているすべては、この愛に至ることを目指しています。すなわち、愛のこの内的な真実。あなた方は夫として妻として、ここに召し出されているのです。

この愛はたえず学ばなければならない。祈りつつ忍耐よく学ぶべきなのです。夫婦の一致がもつ深い美しさの一切は少しづつ究めなければならないのです。この美しさはおもに霊的なもので、単に感覚的なものではありません。たしかに、夫婦一致の美しさは、「からだの一致」の美しさでもありません。が、しかし、人間の身体的な面がその美しさ、輝き、真実を描き出すのは、つまるところ「霊」からなのです。

わたくしたちのこの時代、夫婦愛の真の美しさは実に多くの面で脅かされています。父であること、母であることの尊厳ともども、脅威にさらされているのです。勇気をもちなさい。夫婦愛の真の美しさを探るために、それをたがいに対して、さらには世界に対して、あかすために、不屈の勇気をもちなさい。親としての尊厳を広める使徒でありなさい。美しい愛を広める使徒でありなさい。それだからこそ、親愛なる兄弟姉妹よ、わたくしはみなさんがたを、一五五〇年の昔、エフエゾ公会議で教会がギリシヤ語でテオトコス、つまり神の御母であると信仰告白した御方、今年も思い起こす「神の御母」のみ手に、委ねます。(一九八一・五・三)

救いの恵みは

苦しみを通して

父であらせられる神の娘はたえられまますように。神の御子の御母はたえられまますように。聖霊の花嫁はたえられまますように。至聖なる三位一体の聖櫃はたえられまますように。

みなさん、私たちはとくに聖母被昇天の日、これらのことを特別な意味をこめて口にします。天に昇られた御母の栄光をほめたたえるのです。また「お告げの祈り」を唱えて、(…)聖母の栄光をうたいます。

お告げのとくすでに、ナザレトのマリアが至聖なる三位一体の特別な聖櫃であることが明らかにされました。つまり、ご託身の奥義により永遠の御父が御子の母となるべき娘をお選びになったのです。そして聖霊の御力と御働きにより、みことばは母の胎内で人間となられました。

本日マリアは御子の栄光、あのご復活に始まる栄光にあずかります。聖パウロはこの辺の事情をコリント人たちに書き送っています。「すべての人がアダムによって死ぬように、すべての人はキリストによって生き返る。…まず初穂であるキリスト、次に、キリストのものである人々がつづく。(コリント前15・22-23)

聖母以上にキリスト者であると言える人がいるでしょうか。聖母は被昇天によってだれにもまして復活の栄光にあずかります。

東西両教会が幾世代にもわたってあらわしてきたこの栄光を本日の典礼とすべて信じる者のよろこびを自分のよろこびとして、私はみなさんと一緒に「告白したい」と思います。わたしたちの信仰の慰めとし確認とするた

めに一九五〇年十一月一日のピオ十二世による教義決定の文書を思いだしてみましょう。「われわれの主イエズス・キリストの権威と、

使徒聖ペトロと聖パウロの権威、および私の権威により、神の無原罪の母、終生処女であるマリアがその地上の生活を終ったのち、肉身と共に天の栄光にあげられたことは、神によって啓示された真理であると宣言し、布告し、定義する。(Dn. 3903)

この信仰告白をよろこぶことについてはもう一つ理由があります。三ヶ月にわたる病気のためにほとんど病院から出ることができなかったのですが、三ヶ月経った今、永遠の都に居を定める人だけでなく、巡礼にきた人々があつまるこの聖ペトロ広場で、本日ふたたびみなさんと一緒に「お告げの祈り」を唱えることができるからです。

神の御母のお使いになったことばを私にも使わせてください。「私の魂は主をあがめ、私の精神は、救い主である神により喜びおどる」と。(ルカ1・46-47)(一九八一・八・十五)《シエメリ病院を出る前に教皇さまがお話しになったことば》

(…)私は生命を保ち、健康を回復させてくださったことに心から感謝します。と同時に、もう一つ感謝したいことがあります。それは、この三ヶ月間、みなさん方病に伏す方々の一人として、キリストの神秘体である教会の特別な一部分をなしていたことに対する感謝です。私たちは聖パウロと共に、病に伏す人はとくに「キリストの苦しみの欠けるところを補う」と言えます。この三ヶ月間私はこの特別なグループに属することができたのです。(…)今私は以前にも増して苦しみが人生の一面であることを知ることができました。苦しみにいてこそ救いの恩寵が人の心に深く根づくことを知ることができました。(…)

不変の教え

神学にたずさわる人へ

恵まれた知力のある人は、とくに現代のよ
うに重大な時期にあつて、より大きな責任を
負っています。私はこの機会をとらえて、こ
とさら大切だと思われる点について考えを述
べたいと思います。

現代社会が非常に複雑になり、専門化が進
んだ結果、膨大な量の研究、疑問、方法論、
研究分野が現われ、大変価値ある研究結果を
産み高く評価されています。しかし同時に、
どの分野においてもバラバラの知識ばかりが
増えてしまい、時々、神学の意義や目的がほ
やけてしまうことがあります。世俗化された
社会において神の足跡はほとんど消し去られ
てしまいました。ですから、私たちと全世界
の生命の起源であり基盤である、三位の神を
集中的に考えることこそ、現代神学の最も重
要な課題であると思います。神学的知識に対
する情熱はことごとく、最終的に神を目指す
べきなのです。(…)

聖トマス・アクィナスの教えによれば、神
についての知識を伝えるという神学者の仕事
は、同時に人間に対する愛の行為なのです。
神学はすべて聖書を基としなければなりま
せん。神学的伝統はことごとく聖書から出
、そして聖書に戻って行くものです。従つて、
聖書の研究にあたっては、二つの仕事を忠実
に果してくださいようお願いします。人間の
創作によるのではなく、神の手になる比類の
ない福音を守ることを、そして、勇気を出して
純粋なままの福音を世にもたらすことの二つ
であります。第二バチカン公会議の啓示憲章
が説くように、聖書全体の研究こそ、「神学の

魂」であります。聖書全体の研究をしつかり
とすれば、神学の研究は充分な栄養を得て、
若返ることになります。聖書から生命を引き
出すことができれば、まだまだ多くの相違が
あるとは言え、わかれた兄弟たちにもっと近
づくことができるでしょう。

カトリックの神学者の場合、聖伝を仲介とし
なければ、聖書と現代諸問題との間に橋をか
けることはできません。聖伝が聖書の神のみ
ことばにとつてかわることはありませんが、
幾世紀にもわたつて積み重ねられてきた聖書
解釈を証明してくれるのが聖伝なのです。教
会の生ける聖伝に常に接してください。まだ
まだ隠れていることも多くあるでしょうが、
とにかく聖伝という宝から学んでください。
聖伝から学ぶと言っても、過去の遺物にのみ
依存することにはならないこと、また弟子の
時代から現代に至るまで伝えられ蓄積されて
きた偉大な遺産こそ、今日の諸問題に解答を
与えてくれるという事実を神の民に伝えて欲
しいのです。私たちが聖書そのものと、教会
の生ける聖伝中に残された聖書の「こだま」
に留意するならば、もっと巧く神のみ言葉を人
びとに伝えることができるのです。(…)

教導職への忠実

勇気を出して、哲学や神学を学ぶ学生たち
にこの教会の宝をみせてやってください。

神学はあらゆる種類の人間的知識を使用で
きる学問です。神学者は、方法や分析の仕方
については自由に選ぶことができますが、同
時に、教会の信仰との関係にたえず注意を払

わなければなりません。信仰は私たちが自分
で作りだすものではなく、使徒と預言者の土
台の上に建てられたものであり、キリスト・
イエズスとその隣の親石(エフエゾ2・20)
なのです。神学者は信仰を土台としなければ
なりません。信仰に光をあて、深めることは
できるでしょうが、信仰をつくりだすことは
できないのです。常に教父たちを支えとしな
ければなりません。神学者は、試験管のなか
で純粋に歴史的なことから研究するのが神
学であるとは思っていません。神学とは教会
の生きた信仰を対象としているのです。神学
者が教会共同体の委託をうけ、教会の名にお
いて教えるというのも故あつてのことなので
す。信仰をより深く理解するために役立つ新
しい提案もしなければなりません。それは
常に教会全体に対する提案なのです。神学の
言うことなかには、兄弟的話し合いのうち
に訂正され、より進展させられて、やがて教
会全体に受け入れられることがたくさん
あるでしょう。神学は信者の共同体のための
奉仕なのです。

知る権利

信者の方々には、信仰に関して何を支えに

すべきかを知る権利があります。神学者はど
こに限界があるかを教えなければなりません。
このためにこそ、教会は真理の霊をうけてい
るのです。教導職の仕事は、とくに誤解や誤
りの危険のあるときに、神のみ言葉について
の真理を決定することです。教会の教導職は
このような面において不謬性をもっています。
(…)

確かに、この不謬性は、真理の序列を考え
てみた場合、最も大切な点であるとは言えな
いでしょう。しかし、それは、信仰が確実な
形で知られ、伝えられるための鍵、信者の生
活と生き方に指示を与える鍵の役目を果しま
す。この非常に重要な基盤を揺り動かしたり、
破壊するようなことがあれば、信仰の根本的
な真理は崩壊してしまうのです。

信仰についての証言と教導職に対して忠実
を保たないなら、教会を愛するとは言えませ
ん。ところで、教導職に忠実になるからと言
って、それが、神学者を神学から離れさせた
り、必要な神学の自立性を弱めたりするわけ
ではありません。教導職と神学とはそれぞれ
に独自の分野をもっています。そして、それ
ぞれが全体の役に立つのです。
(一九八〇・十一月・十八日 ドイツ)



最近では、日本国内でも色々なメディアを
通じてヨハネ・パウロ二世教皇様のニュース
が、報道されるようになって参りました。し
かし、教皇様ご自身によって発せられたお言
葉を伝えるものは、なかなか見当たらないの
が実情です。

この「教皇様の声」は、是非とも教皇様じ
きじきのお言葉に接したいという多くの方々
の御要望にお応えして、世界各地でヨハネ・
パウロ二世教皇様がなさった説教・講話、ま
た教皇様の書かれた書簡などを、解説を加え
ずそのまま日本語に訳して収録し、毎月皆
権にお伝えするものです。

年間購読申込方法

- 毎月配布されている教会等では教会へお申込みください。
(年間購読料720円)
- 個人でお申込の方は1,440円(年間購読料720円+送料720円)
を郵便振替にてお送りください。2部以上ご希望の場合は、
下記の送料が必要です。
年間送料 2~4部 840円・5~8部 2,040円
9~19部 2,880円・20部以上無料
(郵便振替 神戸072393 精道教育促進協会)
- 第1号からの在庫があります。同時にお申込みください。

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしに
そのまま伝える月刊紙 ■毎月 十日発行 ■定価 一部六十円送料六十円
■一年予約七百二十円送料七百二十円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替
神戸
072393